

概要:

ワールドカウンシルフォーヘルス(WCH)は今週、当該分野のエキスパートと証拠事実を一堂に集めました。私たちは、多くの人々がターボ癌によって亡くなっていることが、新型コロナワクチンのDNA汚染に由来すること、そして新型コロナワクチンがGMO製品であるものの、GMO規制に則った承認試験を一度も受けていないことについて知りました。したがって、新型コロナワクチンの推進ないし投与を継続する医療従事者に対して、引き起こした危害や、規制外のGMO製品の投与におけるインフォームドコンセントが欠如していたことを理由として、法的責任を問うことが可能になりました。

Covid-19ワクチンは市場から取り下げられるべきでしょうか？下記リンクからご投票ください。

https://twitter.com/lawrie_dr/status/1711657783723250092

Covid-19 mRNAワクチンのプラスミドDNA混入についての専門家による緊急ヒアリング: 知っておくべき必須事項

これは純粋なmRNA注射ではありません！新型コロナワクチンのプラスミドDNA混入の発見について、月曜日に4時間にわたって行われた緊急公聴会から得られた決定的な知見および録画を紹介します。

WCH、2023年10月11日



**Urgent Expert Hearing
on Plasmid DNA in
C-19 mRNA Vaccines:
Everything You Need to Know**



worldcouncilforhealth.substack.com

文責: アリス・アシュウェル(WCH特派員)

「将来の歴史書には(これらが誠実かつ正直に書かれた場合に限りませんが)[コロナ禍]が現代において最も誤って管理された保健危機として記録されるだろうと私は信じています... これらの改変mRNA技術を潜在的なワクチンとして用いることを世界的に停止する必要があります...」

— バイラム・ブライドル准教授

専門家の集結

2023年4月、ファイザー社とモデルナ社が製造した新型コロナ「ワクチン」のバイアル内でプラスミドDNAによる重大な汚染を発見したという衝撃的なニュースがケビン・マッカーナンにより発表されました。これに応じてWCHは、当該問題について現在わかっていることを整理し、これらの遺伝子ベースの製品を注射された何十億もの人々のゲノムに汚染DNAが組み込まれた場合に推測される被害について議論するために、9人の一流専門家が参加する緊急ヒアリングを2023年10月9日にて開催しました。緊迫した4時間にもわたるセッションでは、WCH運営委員会メンバーのクリストフ・プローテDOおよびマーク・トロッツ博士らが司会を務め、下記の専門家達が参加しました。

- ケビン・マッカーナン博士：新型コロナワクチン内にプラスミドDNAが混入していることを発見した、ヒトゲノムプロジェクト研究開発チームの元リーダー。
- ジャンシー・リンゼー博士：「毒性学サポートサービスのための毒性学および分子生物学」の研究部長。
- スチャリット・バクディ名誉教授：微生物学および感染症疫学の専門家。
- アレクサンドラ・アンリオン＝コード教授：エピジェネティックスの専門家、フランス国立衛生研究所の前研究部長。
- バイラム・ブライドル准教授：ゲルフ大学のウイルス免疫学の専門家。
- ピーター・マッカー博士：内科医、心臓専門医、疫学者およびウェルネスカンパニーの主任科学責任者。
- ブリギッテ・ケーニツヒ教授：マールブルク大学の医療微生物学および感染免疫学の専門家。
- ジェシカ・ローズ博士：分子生物学、生化学および計算生物学の知識を活かしたワクチン有害事象データベースの調査の専門家。
- ケイティー・アシュビー＝コッペンズ：ファイザー社とモデルナ社に対する現在実行中の差止請求を含む様々な集団訴訟(クラスアクション)に携わる、オーストラリアおよびニュージーランドで活動する民事訴訟家。

WCHは、50か国以上における200以上の連合パートナーの代表として、世界の健康状態の改善に専念する人々の力による、科学に裏付けられたプロジェクトです。

純粋なmRNA注射ではありません！

このことは、ケビン・マッカーナン博士により初めて発表されました。マッカーナン博士は、モデルナ社とファイザー社のバイアル内の核酸を配列解析し、そのうち35%も細菌プラスミド由来のDNAであることを発見したと報告しました。この発見はその後、米国、日本、フランスおよびドイツを含む他の様々な研究所によって確認されており、最近の研究では、検査された24本のバイアル全てからDNAが検出されたものもありました。

明確にしておく必要がありますが、バイアル内には、その中身がmRNAワクチンである限り、一切のDNAが混入してはなりません！

マッカーナン博士はまた、当該ワクチンにはより患者の遺伝子に組み込まれる可能性が高い、DNAの微細な断片が非常に多く含まれており、規制当局が用いたアッセイ検査によってこれらが正確に検出されなかったため、DNA汚染の度合いについて誤認が生じていることにも言及しました。

DNA汚染問題の概要を知りたい方は、優れた出発点であるジェシカ・ローズ博士の図入りプレゼンテーションをご覧ください。

リンク: worldcouncilforhealth.org/dna

(現在、日本語字幕バージョン作成中)

October 9, 2023 Jessica Rose, PhD

Mistakes were not made: DNA integration into genome via SV40 enhancer?

Likelihood for integration ???

- SV40 functional genes used for gene editing promoter/enhancer
- "we have demonstrated that portions of **SV40 functional genes** are required for the nuclear entry of plasmids in cells tested to date; plasmids not containing the enhancer migrate to the cytoplasm until cell division, **where the enhancer migrates to the nucleus within several hours**"
- "DNA insertions may have far-reaching effects such as **insertional mutagenesis** or silencing by de novo methylation of the introduced gene or nearby cellular DNA"
- Continued expression of spike genes and prolonged spike production
- Stem cell or germline transfer?

¹Van Craenenbroeck K, Vanhoenacker P, Haegeman G. Episomal vectors for gene expression in mammalian cells. *Eur J Biochem.* 2000 Sep;267(18):5665-78. doi: 10.1046/j.1432-1327.2000.01645.x. PMID: 10971576 (David Dean) <https://www.urmc.rochester.edu/labs/dean.aspx> <https://anandamide.substack.com/p/sequencing-the-pfizer-monovalent>

SV40 Enhancer qPCR

A tool for investigating long and persistent spike duration.

ANANDAMIDE
JUL 16, 2023

Given it is now known that the SV40 enhancer in the Pfizer vaccine is a potent nuclear localization signal (NLS) described by Dean et al., it seems prudent to design an SV40 qPCR assay. If there is ever going to be a dsDNA induced genome integration event its most likely going to entail the NLS given the dsDNA in the vaccines is mostly fragmented.

To do this, we targeted the 72bp tandem repeat (also known as the bidirectional Enhancer element) in the Pfizer vaccine. This assay will not work on the Moderna vaccines as they do not contain this sequence.

This assay may be helpful to track which tissues may have SV40 elements from the Pfizer vaccine still present.



ローズ博士は、新型コロナウイルスワクチンの臨床試験においてmRNAがPCR技術に基づく手法で製造されていたものの、この手法が大量生産には適していなかった事実について説明しました。よって、一般に供給された何十億回分のmRNA注射を製造するには、全く異なる手法が必要とされたのです。具体的には、大腸菌(E. coli)を用いてプラスミドDNA(環状二本鎖DNA)を産生し、次いでプラスミドDNAがmRNAを生成する手法が採用されました。しかし、DNAが製造後に十分に除去されなかったため、高レベルな汚染が発生しました。ワクチンメーカーは、(異なるリスクを伴う)異なった製造方法が採用されたという事実を伏せていました。したがって、インフォームドコンセントが成立することは不可能だったのです。

注射内のプラスミドDNAはどのような影響を及ぼしますか？

新型コロナウイルス注射のプラスミドDNA混入によるリスクとしては、例えば、アナフィラキシー反応を引き起こすことがある細菌性エンドトキシンが存在する可能性などが挙げられます。皮肉なことに、このリスクは、「ワクチン」が体内で産生されるスパイクタンパク質によって強調されます。

さらに、プラスミドDNAの細胞核への侵入を許すと、それらが患者の遺伝子に組み込まれてしまう危険性があります。

アレクサンドラ・アンリオン＝コード教授が指摘したように、細胞分裂中に核膜が消失すると、DNAが核に侵入することが可能になります。しかしながら、懸念するべきことに、汚染DNAが無傷の核に侵入することができる経路が少なくとも5つあります。最も明白な経路は、注射内の核酸をカプセルのように包み込む脂質ナノ粒子(LNP)によるものです。核酸が細胞膜および核膜を通過できるようにすることに加えて、LNPIは、mRNAとDNAを細胞内の酵素による破壊から守るトロイの木馬としても機能します。

ファイザー社は、規制当局に提供したプラスミドマップにおいてスパイクタンパク質のS2成分のための遺伝子が存在することを開示しましたが、マッカーナン博士が同定した、下記のものを含む他の重要な配列の開示を省きました。

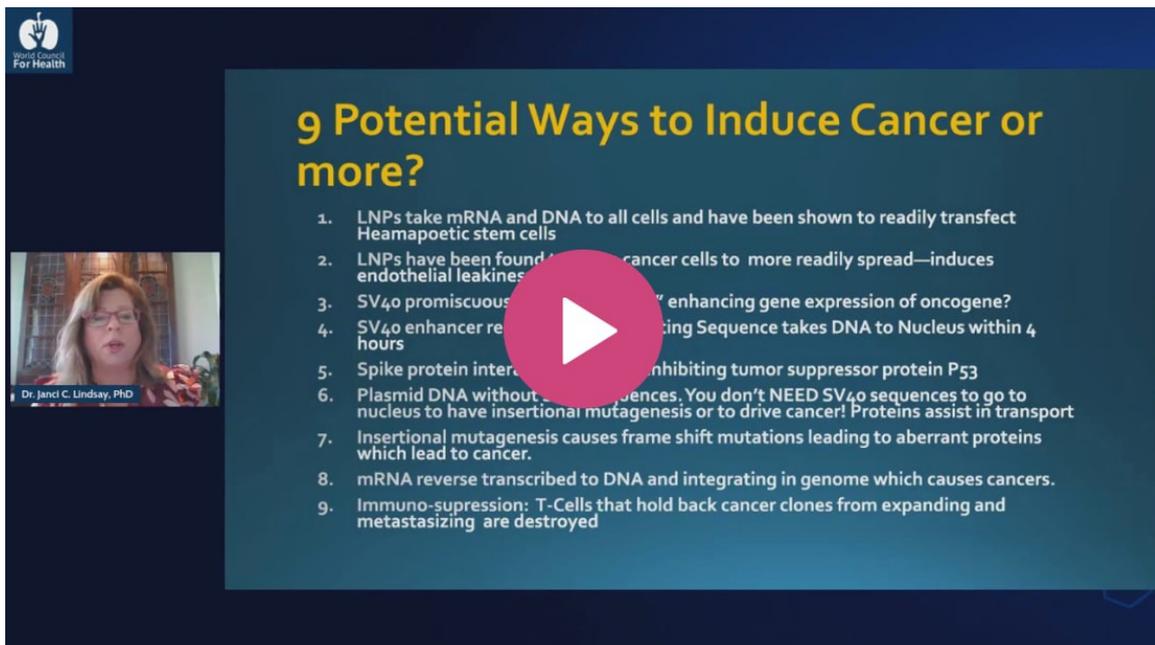
- SV40プロモーター: この配列がヒトゲノムの癌遺伝子の隣に組み込まれることで、癌の発症を促すことがあります。
- SV40エンハンサー: 細胞に導入されたDNAが、この配列により核内に急速に輸送され、そこで宿主ゲノムに組み込まれることがあります。
- 抗生物質耐性遺伝子: 宿主ゲノムに抗生物質に対する耐性を与えることで、致命的な被害をもたらす可能性があります。

ワクチンの有害事象

現在、新型コロナウイルスのワクチン接種を受ける人々の数のはるかに減ったにもかかわらず、有害事象の報告数は増え続けています。ピーター・マッカー博士は、有害事象が起きる4つの領域、すなわち、心血管系、神経系、免疫系、そしてDNA汚染によって最も直接的に影響を受けやすいのが発癌系であると特定しました。

実際、ワクチン有害事象報告システム (VAERS) は現在、急速に進行する「ターボ癌」を含む多数の癌症例を報告しています。

ジャンシー・リンゼー博士は、LNP、SV40プロモーターおよびスパイクタンパク質の役割などを含む、注射が癌を引き起こし得る様々な経路を特定しました。これらの経路のほとんどにおいて、DNA汚染が重要な役割を果たすと考えられます。



9 Potential Ways to Induce Cancer or more?

1. LNPs take mRNA and DNA to all cells and have been shown to readily transfect Hemapoetic stem cells
2. LNPs have been found to induce cancer cells to more readily spread—induces endothelial leakiness
3. SV40 promiscuous enhancer sequences enhance gene expression of oncogene?
4. SV40 enhancer represses SV40 Enhancing Sequence takes DNA to Nucleus within 4 hours
5. Spike protein interacts with and inhibiting tumor suppressor protein P53
6. Plasmid DNA without SV40 sequences. You don't NEED SV40 sequences to go to nucleus to have insertional mutagenesis or to drive cancer! Proteins assist in transport
7. Insertional mutagenesis causes frame shift mutations leading to aberrant proteins which lead to cancer.
8. mRNA reverse transcribed to DNA and integrating in genome which causes cancers.
9. Immuno-suppression: T-Cells that hold back cancer clones from expanding and metastasizing are destroyed

癌のリスクについて、マッカー博士は「マルチヒット仮説」に言及しました。当該仮説は、DNA汚染による突然変異誘発の増加、注射における改変 mod RNAによる自然免疫系の慢性的な損傷、ならびに腫瘍抑制遺伝子p53およびBRCA1の損害の作用機序が含まれます。

マッカー博士による、複数回にわたる新型コロナウイルスワクチンの接種が癌の発症を引き起こしている可能性の懸念表明については、下記の録画をご覧ください。(リンク: worldcouncilforhealth.org/dna 現在、日本語字幕バージョン作成中)



行動喚起

mRNA「ワクチン」にDNAが混入しているという発見は大きな衝撃でしたが、それと同時に研究、協力および行動の新たな焦点になりつつあります。また、mRNA製品によって損害を受けた人々が汚染の度合いを正確に認識する切掛けになるかもしれません。

この度のヒアリングは、マッカーナン博士の調査結果が発表されてからの数か月という短期間で私たちが学んだことを統合するだけでなく、この課題に団結して取り組んでいるチームに深く感謝の意を示す機会でもありました。

今回のヒアリングにおいて、下記のようなプロジェクトおよびリソースについての情報を共有することができました。

- ケビン・マッカーナン博士は、他の研究室が彼の研究結果を再現することができように、用いたプライマー配列を公開しました。現在、病理学者が組織を検査するのに用いることができるキットを製造しており、11月下旬には入手可能になる予定です。
- ブリギッテ・ケーニヒ教授は、スパイクタンパク質、ワクチン由来のmRNAおよびプラスミドの分析のために研究団体が利用することができるアッセイ(試験法)を開発しています。
- ジェシカ・ローズ博士は、配列決定されたバイアルのデータセットを構築し、これをファーマコビジランス・データベースの情報と関連付けることを計画しています。彼女はまた、マッカーナン博士のプロトコルを使用して、プラスミド成分の幹細胞または生殖系列細胞への組み込みを調査することも計画しています。
- バイラム・ブライドル准教授は、米国公衆即応緊急事態対策(PREP)法(2005年改正)により、医薬品に汚染物質が混入していることが判明した場合の訴追免除が保証されていないため、mRNA「ワクチン」に汚染物質が混入していることは、製造業者に対する法的措置を実行する可能性が開けたと指摘しました。
- ケイティー・アシュビー＝コッペンズ弁護士は、オーストラリアで訴訟を起こすことで、モデルナ社とファイザー社によるmRNA製品の販売をGMO規制に則って阻止することを試み、オーストラリアの規制当局に対し、資金を得ている以上、責任を持ってこれらの製品の汚染を調査し、安全性を確認するよう求める予定です。
- WCHは、関連するリソースにアクセスすることができるWebページを設立しました。また、皆様に情報を提供し、実践的な行動をサポートするための特別なニュースレターも作成する予定です。

WCHは、50か国以上における200以上の連合パートナーを代表し、世界の健康状態の改善に専念する人々の力による、科学に裏付けられたプロジェクトです。

結びのコメント

マーク・トロッチ博士およびクリストフ・フローテDOは、下記の趣旨の声明で公聴会を締めくくりました。

- 注射を直ちに中止する必要があります。
- 関連する規制機関は、新型コロナウイルス感染症対策に関する公的な調査を実施するべきです。この要請に応じない場合は、当該機関も調査の対象に含まれるべきです。
- 循環するスパイクタンパク質およびゲノムの統合を検出するための検査方法を一般に利用可能にする必要があります。
- 治療(スパイクデトックス)および被害者への補償を受けられるようにする必要があります。WCHは、ウェブサイトにて様々な治療法を紹介しています。
- 新型コロナウイルス感染症に関する犯罪性のレベルは無視できません。捜査、起訴、和解および補償が行われなければなりません。

- 医療従事者および一般の方々に対する教育が必要です。注射を中止するためには、当該セッションで共有された知識が一般にアクセスできるようにする必要があります。
- 検閲を受けた専門家を元の地位に復帰させるべきです。彼らはより良い未来への道を示すことができます。

最後に、ジェシカ・ローズ博士が下記のように参加者の胸中を言葉に表しました：

「皆様と共に、このような活動に根気強く取り組んでいることを心から感謝しています。私たちが共同で公開しているのは、非常に質の高い仕事です。これが私たちにできる唯一のことであり、直面している相手を考慮すると、素晴らしい仕事ができていると思います。私は、この仕事が多くの人々のもとに届くと確信しています。このプラットフォームの標準化により転換点が訪れたとすれば、それは良いことです。参加できたことに感謝しており、多くの人々が助けを必要としているため、私たちの仕事によって必要とされる多くの重要な人材の目が開かれ、状況を好転させることで人々を助けられることを心から願っています。」

リンク：

イベントを視聴するには、次のサイトにアクセスしてください：worldcouncilforhealth.org/dna

プレスリリースのダウンロード：

(英文)<https://worldcouncilforhealth.org/wp-content/uploads/2023/10/Expert-Panel-Outcome-Press-Release.pdf>

(日本語バージョン)<https://wch-japan.org/?p=1777>

ワールドカウンスルフォーヘルス・ジャパン：<https://wch-japan.org/>

ワールドカウンスルフォーヘルスについて

ワールドカウンスルフォーヘルスは、健康、福祉そして正確で信頼できる保健情報の拡散の促進に献身する世界的な団体です。専門家と政策立案者および公共団体が協働するように働きかけ、人類にとってより良い方法を促進するために尽力しています。

翻訳：ワールドカウンスルフォーヘルス・ジャパン

